

令和2 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779200647		
法人名	社会福祉法人 春栄会		
事業所名	グループホーム たんぼほの里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市鶴見区今津南3-5-5		
自己評価作成日	2020年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月25日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action\\_kouhvu\\_detail\\_022\\_kani=true&JievsvoCd=2779200647-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JievsvoCd=2779200647-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	2020年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者さん、ご家族と相談しながら、その人らしく生活が出来るように支援しています。今は感染症対策で面会や外出が出来ていませんが、それまでは、美容院、喫茶店、お散歩など気軽にご家族と外出されていました。ご家族が実家に集まるように、日にちを合わせて来所され、居室で過ごされたり、フロアでご家族と利用者さんと職員が話し込むことも良くみられる風景でした。面会自粛の今は、ご家族の代わりに寄り添い、ご家族には、利用者さんの日常や変化をお伝えしていくようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設16年目を迎える、社会福祉法人が運営するグループホームです。隣接して同法人の特別養護老人ホームがあり「あたたかく命を守る」を法人の理念とし、その人らしく、自主性を尊重して、一人ひとりの暮らしを大切にしています。家庭の感覚で利用できるよう、家族への報告、説明、連絡を密にし、リモートでの面会も始めました。コロナ禍で会えない間も電話や書面で状況を受け取ることができ、親身な寄り添いや、いつでも相談できる安心感があり、家族からも信頼を得ています。例年は、夏祭りや、中学校の職場体験、小学校の町探検等もあり、地域社会との交流共生の方針の下、盛んな交流が行われていますが、コロナ禍で今年は残念ながらできていない状況です。近所から小型犬2匹がホールに来るようになって、利用者の笑顔の関わりが増え、癒しとなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(2ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたたかく命をまもる。」という理念のもとにご利用者さんの思いを大切に支援しています。	「あたたかく命を守る」という法人の理念は、1階2階のフロアと玄関にも掲げ、職員や家族の理解を得て共有しています。「利用者本位のその人らしい生活、生き甲斐と自己実現、地域社会との交流、尊厳とプライバシーの尊重、安らぎと潤いに満ちた生活」を日々確認し、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入しています。 夏祭り、敬老祭、だんじり、町探検など地域の方と交流しています。	例年は地域の様々な行事に参加しています。事業所の夏祭りや催しには、家族は知り合いも誘い、地域住民や子ども達も大勢参加して交流を楽しんでいます。中学生は職場体験、小学生の町探検でも訪問を受け、交流を重ねています。	今年はコロナ禍で、交流ができない状況が続いています。12月にはクリスマス会が予定されていますが、感染症対策を十分に工夫する事で、楽しい交流の機会が次々に復活する事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が相談に来られた時は対応しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、開催し情報交換、助言をいただいています。 (現在は感染症防止の為、書面での開催になっています。)	運営推進会議は年6回開催していますが、本年度は電話や書面を利用し、状況報告や相談をしています。委員からはアドバイスを受け、対応内容の報告を行い、利用者のサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括と連携し、入所相談を受けています。 大阪市老人福祉施設連盟グループホーム委員会に加入し、大阪市との意見交換や研修に参加しています。	地域包括支援センターとの連携により、自宅での生活が困難になった方の緊急入居依頼があったり、他の区との連携により生活保護の方を受け入れた例もあります。重度化で同法人の特別養護老人ホームに移る利用者もあり、今は空きがある状況です。	見学者は利用に繋がっていますが、今後は、区の担当者や地域包括支援センターとのさらなる連携が期待されます。空き状況など、積極的に情報を公開されてはいかがでしょうか。

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	表玄関は、外部からの侵入者を防ぐ為に施錠していますが、それ以外は身体拘束ゼロです。	年2回、特別養護老人ホームと合同レポート研修をしています。拘束の対象となる行為は全員が理解していますが、その都度資料を出し、再確認しています。転倒防止の為、センサーマットを使用して対応改善に繋がっています。外国人スタッフには日本語研修時の内容に加えています。スピーチロックの改善が今後の課題となっています。	「座っていて」等のスピーチロックでは、立って歩こうとする目的を知ることで声掛けの仕方が変わってきます。行動の目的を知るための工夫をされてはいかがでしょうか。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を定期的に行い、虐待防止に取り組んでいます。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なお利用者やご家族があれば相談に乗り制度を利用できるよう支援しています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得されてから契約、解約しています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を話しやすい雰囲気作りを心がけています。	面会ができないので、「たんぽぽだより」で各利用者の写真をプリントして送っています。通信欄にはホームでの暮らしぶりや取り組みを職員が代筆したり、自身で書いて伝える利用者もいます。家族からは、意見要望などの返事があります。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見や提案を聞くように努めています。	現場のアイデアを取り入れ、カンファレンスで話し合っています。長く勤める職員も多く、全ての職員の意見を聞き反映させています。家族からは、相談しながらトライして、より良い結果が出るよう努力を重ねてもらっていると評価されています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活状況に配慮しながら働きやすい環境に努めています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に適した研修に参加出来るよう支援しています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉、医療の集まりに出来るだけ参加するよう心がけている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前に、体験入所して頂き、安心感を持っていただけるよう努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも、施設見学をして頂きその際に不安なことや要望を傾聴し、納得されてからの入所になるように努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人ともにどのような支援が必要であるかを言動や行動から見極められるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物、シーツ交換等、出来ることは手伝って頂きともに生活しているような環境づくりに努めています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活を出来るだけ御家族に報告し相談しながら共に支援していく環境づくりに努めています。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来訪時は、居室でゆっくり過ごしていただきます。	入居時には、子どもの頃、青春時代、働き盛り、初老期、得意な事、好きな事などを聴き、馴染みの関係の継続等に活かしています。知人などの訪問時には居室で会話を楽しんだり、行き来する関係が続いています。施設を実家ととらえて、親戚など時間を合わせ集う場所にもなっています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が対立したり、孤立しないよう支援しています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族と連携し相談しやすい関係を築けるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、ご利用者の思いに気づき希望に添えるように努めています。	病気の事、好み、食事などは個別に記録し、把握しています。好き嫌いは表にして共有、確認しています。化粧品、衣類などは希望を聴き、それぞれの意向に添うよう職員が買い物の代行もしています。自分で買い物に行きたい利用者は、家族に付添いを依頼しています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族との会話によりこれまでの生活環境を把握出来るよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神的、肉体的な変化に注意し、日々を穏やかに過ごせるように支援している。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度の会議で、課題を検討し個人記録に記録します。	生活の意向については、本人・家族から聴き取り、全体会議やカンファレンスで検討し、その人らしい生活、普通の暮らしが送れるように計画を立てています。計画書は6ヶ月毎に見直ししています。	支援方針については、生活の自立支援に繋がる介護内容を特に詳しく記入し、それに添って本人・家族に説明し、よりよい理解が得られるようにされてはいいかがでしょうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、情報を共有しています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化は出来ていません。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は活用した支援は出来ていません。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人の希望に沿った受診、往診を支援しています。	週3回、近隣のクリニックより医師の往診や、隣接の特養の看護師の訪問があります。入居前からのかかりつけの医療機関へは希望があれば可能で現在、1名の利用者が月に1回家族と受診しています。緊急時や夜間は特養の看護師がオンコールで対応し、24時間支援の体制が整っています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、日誌のコピーと共に申し送りをし、必要な看護が受けられるよう努めています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者 との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうし た場合に備えて病院関係者との関係づくりを行ってい	近隣病院の地域連携室と情報共有するよう努 めています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段 階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ででき ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関 係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期の意向確認書」は入所の時点で記入し ていただきますが、その後、何度もご家族と話 し合いながら進めていきます。隣接する特養 とクリニックの協力を得ながら支援しています。	入居時に重度化や終末期の支援について意向 を聞き取り、書面に残しています。入居後は利用 者の状況にあわせ適宜、意向の確認を行い、更 新しています。重度化しても医師や看護師、職 員と支援を検討しながら、ギリギリまで意向に沿 えるよう取り組んでいます。希望があれば看取り も行っていきますが、隣接の特養で最期を迎える ケースが殆どです。職員は看取りに備え、終末 期をシミュレーションした勉強会を開いていま す。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力 を身に付けている	病状に応じたマニュアルを作成し、定期的な研 修を実施している。緊急時の対応や連絡先を 掲示している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用 者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、 地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施。災害時のマニユ アル作成。	防災訓練は年2回行っています。災害時のマ ニユアルの他にホーム独自の災害計画書を作 成、具体的な職員の動き等記載してあります。飲 料水は1階の倉庫に保存、食料品は特養の倉庫 に3日分備蓄しており、栄養士が管理していま す。又、地域から協力の要請があり、館内への 住民の避難を受け入れるなど、鶴見区の避難所 に指定されています。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損 ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき「一人一人の人格を尊重し、プ ライバシーに配慮した言葉かけ」が出来るよう 努めています。	職員は法人の理念に基づき利用者一人一人の 誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応 をしています。トイレを気にする利用者にはリビ ングより遠いトイレに誘導する等さりげなく日常 の支援の中で実践しています。接遇マナーの研 修も年に1回行っています。

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を尊重し、自己決定出来るよう努めています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが不規則にならない程度に、ご本人のペースで生活していただけるよう支援しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や美容院への外出支援。化粧品や季節ごとの衣服の購入を支援しています。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は管理栄養士の作成したバランスの良いメニュー。朝食とおやつは希望を考慮したメニューとなっています。	朝食のみホームで用意していますが、利用者は高齢化の為、職員と一緒に準備する事は困難な状況です。下膳など出来る時は手伝っています。おやつは利用者の希望を取り入れている為、楽しみの一つになっています。家族の差し入れ等も時折あります。月1回の誕生会は手作りのケーキに利用者がトッピングするなど楽しいひと時を過ごしています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ないご利用者さんは、通常の食事・水分摂取量以外に、個別に嗜好が確認できるチェック表を作成しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアへの声掛けと見守り。個々に適した口腔ケアの実施。全員が訪問歯科を利用しています。		



己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さず、声掛けをして、トイレでの排泄が続けられるよう支援しています。	トイレでの排泄を基本としています。排泄チェック表や利用者の動きを見ながら声掛けし、随時トイレに誘導しています。夜間はポータブルトイレ使用の方もいますが、殆どの方がトイレを使用しています。排尿だけでなく排便も下剤の服用は極力せず、自然に排泄出来るよう支援しています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルト提供、一人一人に適した水分の補給、散歩をするなど自力排便を支援しています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日を決めず、体調などに合わせて週2回提供しています。	入浴は週2回、日にちを決めずに利用者の状態に合わせて入っています。機械浴はありませんが、湯船に浸かれない方はシャワー浴と同時に足浴をするなど工夫しています。個人専用のシャンプーやボディソープを使っている利用者が多く、入浴を楽しんでいる様子が見えます。冬場に向け足浴専用のバケツの購入を検討しています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせてのお昼寝の実施、就寝時間の変更など安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は、薬情ファイルの設置。臨時薬は業務ノートにて連絡、塗り薬は処置表に明記と皆が周知出来るようにしています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ一人一人に合わせた生活が出来るよう支援しています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や知人の協力のもと、喫茶店や美容院などへの外出を支援しています。	今年度はコロナの影響で外出は出来ませんが、敷地内を散歩したり、広場に椅子を置き、外気浴をしたりしています。隣接する特養の屋上に上がって町並みを眺めたりと利用者が閉塞感を感じない様努めています。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理できる方は現金所持されています。それ以外の方は、スタッフ預かりでご家族より現金を預かり、「おこづかい帳」として管理。	
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置。携帯電話は居室内で利用可能。暑中見舞いや年賀状を職員と作成し家族に送っている。	
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、壁面にある飾り付けを変更し、季節にちなんだ会話ができるようにしています。ご利用者も一緒に作成していただきます。	建物内は白と茶を基調に落ち着いた雰囲気、各フロアともに明るく、壁には季節を感じられる飾りや写真が掲示してあります。リビングには食堂の椅子以外にソファが置いてあり、ゆっくりとくつろげる場所になってます。又、家族の面会時にも活用しています。フロアには絶えずクラシックや歌謡曲など時間帯に合わせた音楽を流しています。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア全体にソファや椅子を配置し、自由に移動してもらえるように工夫しています。	
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好きなものをご家族と相談しながら設置し居心地良く生活していただけるよう工夫しています。	居室にはベッドと押し入れ、洗面台が備えてあります。利用者はテレビやテーブル、イス、仏壇等自宅で使用していた馴染みの家具を持ち込み、自分らしい居心地の良い部屋になっています。又、壁はマグネットになっており、写真や職員と一緒に作った作品など貼ってあります。コーヒーを飲みながら新聞をゆっくりと読むなど自宅と変わらない時間を過ごしている利用者もいます。

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活を送っていただけるよう配慮しています。		